

★今週の聖句

「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」

マタイによる福音書 17:5

★ねらい

- ①主イエスこそが救い主であり、生ける神の御独り子であることを、神がお示しになられた。神が「これに聞け」と言われたように、主イエスのお言葉に聞き続ける者でありたい。
- ②「いつもあなたがたと共にいる」と約束された主が、私たちに手を触れ「恐れることはない」といつも励ましてくださる。

★説教作成のヒント

- ・主イエスが洗礼を受けられたとき、天から「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が聞こえた。これは詩編 2:7 とイザヤ 42:1 のみ言葉である。この時は主イエスに対するものであったが、このたびは弟子たちに対して語られている。しかも「これに聞け」ということばが付け加えられている。神の御子である主イエスにこそ聞くべきであると示されたのである。
- ・「イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。『起きなさい。恐れることはない。』」。主イエスが弟子たちのもとへ近づいてこられるのは、この箇所と、復活後の主イエスが弟子たちに使命（宣教命令）を与えられる箇所である（マタイ 28:18）。この変容の出来事と、復活の主の顕現が密接に関連していることを暗示している。主イエス・キリストは「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」と約束をしてくださっているのである。

★豆知識

- ・神は主イエス・キリストの天的な姿を垣間見せられる。それは神の後ろ姿を見たモーセも（出 33:23）、ホレブの洞窟のエリヤも（列王上 19:13）、二人とも神に出会う体験をしている。IIペトロ 1:16 で、ペトロは「キリストの威光を目撃」したと証言し、ヨハネは黙示録 1:16 で「顔は強く輝く太陽のよう」と述べている。
- ・モーセは律法を代表する人物、エリヤは預言者を代表する人物である。

★説教

イエスさまは、ペトロとヤコブとヨハネの3人のお弟子だけを連れて、高い山に登られました。すると、お弟子さんたちの目の前で、イエスさまのお顔や衣が、太陽の光ように輝きました。神さまのご栄光を表すように、目もくらむほどに輝いたのです。そのうえ、旧約聖書の登場人物の代表者ともいえるモーセとエリヤが現れて、イエスさまと話しあっていました。

ペトロはその様子を目の前にして、どのように言えばよいかわかりませんでした。そして「主よ。わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。お望みでしたら、わたしがここに仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです」と横から口出しをするのです。ペトロは6日前に、「あなたはメシア、生ける神の子です」と、イエスさまに申しましたのに、実は、イエスさまのことを正しく理解していなかったのです。なぜなら、仮小屋を三つ建てると言いだし

て、イエスさまのことを、モーセやエリヤと同じレベルのように考えていたからです。

ペトロがまだ話しているうちに、神さまがそれをさえぎるように、光り輝く雲がイエスさまたちをお包みになります。そして雲の中から、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」と、神さまがお答えくださったのです。

お弟子さんたちは、雲の中からの声を聞いて、あまりの恐ろしさに、ひれ伏してしまいます。するとイエスさまは、お弟子さんたちのところに近づいてこられ、彼らにそっと手をふれて、起きなさい、こわがることはないのですよと、やさしくお声をかけて励ましてくださいました。お弟子さんたちがそっと目を上げると、モーセやエリヤの姿はすでになく、いつも通りのイエスさまが、ただお一人でおられたのです。

高い山の上で、お弟子さんたちの目の前で、イエスさまのお姿が光り輝いたのは、イエスさまこそが救い主であり、生ける神さまの御ひとり子であることを、神さまがお示しになられたのです。イエスさまはこののち、まもなくご自身におとずれようとする苦しみ、私たちの身代わりとして十字架におつきになるために、まっすぐに進んでいってくださるのです。

神さまは「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」と言われました。私たちもペトロと同じように、神さまが私たちを愛して、私たちにしてくださろうとしていることに対して、ときには口ごたえをしたり、素直になれないことが多いものです。

しかし、神さまは「これに聞け」と言われました。つまり、イエスさまが、私たちにおっしゃってくださるそのお言葉に、いつも聞きつづける者でありたいと願うのです。イエスさまは、どのように辛く苦しいときにも、そっと手を触れて、起きなさい、こわがることはないのですよと、私たちにやさしく励ましてくださるお方なのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

67番

改訂53番

話してみよう

- ・モーセさんと「十戒」のこと
- ・預言者エリヤさんのこと
- ・天の声「これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者。これに聞け」それは「イエスさまのみことばをききなさい」ということ。

やってみよう

小さなスケッチブックか手帳を用意して下さい。

「イエスさまのみことば手帳Ⅰ」を作りましょう。

手帳にイエスさまのみことばをかきとめる。そして何度も声を出して読む。みことばをおぼえる。これから毎週分級で一つのみことばをかき加える。

★今週の聖句

「人はパンだけで生きるものではない」

マタイによる福音書 4:4

★ねらい

- ① 「人はパンだけで生きるものではない」。神は私たちに必要なものをすべて備えてくださっている。主イエス・キリストが私たちに語ってくださったみ言葉に励まされ、慰められて生かされていることを知る者でありたい。
- ② 主イエスは、ご自分のために奇蹟をなさったり、この地上での栄光を求めることはなさらなかった。「“霊”に導かれて」とあるように、神のご意志とご計画により、救い主なるお方が悪魔の誘惑を受けられ、それに対して勝利をおさめられたのは、私たちの救いのためだったのである。

★説教作成のヒント

- ・ 四旬節の慎みの時期に、主の四十日の厳しい断食と荒れ野の誘惑のテキストを学ぶ。第2の誘惑では聖書のことばをたくみにすり替えて、悪魔は主イエスにささやく。悪魔が引用したのは詩編 91:11-12、のみ言葉であるが、「あなたの道のどこにおいても」というフレーズを省略している。ちょうど、創世記 3:1 で蛇がエバに対して、主なる神の言葉を少しだけ巧みに言い換えて誘惑したのと同じである。聖書をその脈略にそって学ぶことをせず、人間の勝手な形で自分の都合のよいように解釈してしまう危険性に心しなければならない。

★豆知識

- ・ 今はないエルサレム神殿の壮麗さをコンピューター・グラフィックで再現したテレビ番組を御覧になった方もあると思う。現在、死海写本館で有名なエルサレムのイスラエル博物館の敷地内に、小学校のグラウンドぐらいの広さの場所に「神殿を含む旧市街」の何分の一かの復元模型が展示されている。ソロモンが建てた神殿の高さ（列王上 6:2）は30アンマ（約13.5メートル）で、現在の4～5階建てのビルの高さに相当する。

★説教

イエスさまが洗礼をお受けになったときに、神さまの霊がご自分の上にくだってくるのをごらんになり、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声をイエスさまは聞かれました。そののちイエスさまは悪魔から誘惑をお受けになるために、神さまの霊によって荒れ野に導かれました。ユダの荒れ野は、草や木もほとんど生えていない、砂漠のようなところです。そのようなきびしい環境の中で、40日間、昼夜を問わず、何もお食べにならない激しい断食を経験されたのです。

父なる神さまが、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と、宣言をなさったことを明らかにしようと、悪魔はイエスさまに迫ります。それで、悪魔はイエスさまの耳もとで、「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ」とささやくのです。

かつて、イスラエルの民が40年間、荒れ野の旅をした時に、神さまは「マナ」という食べ物を与えて支えてくださいました。その時の神さまのみ言葉によって、イエスさまは悪魔に答えられました。

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」

私たちが自分のいのちということを考えるとき、いのちは食べものだけでささえられているのではないことに気づきます。食べものだけでなく、私たちに必要なすべてのものを備えてくださった神さまによって生かされていることを知るのです。前の週に、神さまが「これはわたしの愛する子、・・・これに聞け」と言われたことを私たちは学びました。イエスさまが私たちに語ってくださる言葉の一つ一つ、聖書のみ言葉によって、私たちは慰められ励まされて生かされていることを知るのです。

しかし悪魔は次に、聖書のことばをたくみにすりかえて、イエスさまを誘惑します。神殿の屋根の端から飛び降りたらどうだとそそのかすのです。そのころのエルサレムの神殿は、およそ4～5階だてのビルの高さです。イエスさまは聖書のみ言葉によって、その誘惑をしりぞけられました。

さらに悪魔は、「世のすべての国々とその繁栄ぶり」をイエスさまに見せました。そして悪魔は自分を拝むように要求しました。イエスさまは、ご自身のために奇蹟をなさったり、この地上での栄光を求めることは決してなさいませんでした。ここでも聖書のみ言葉を用いて、悪魔の誘惑に勝たれました。ついに悪魔は、イエスさまのもとから去っていきます。

イエスさまが受けられた誘惑は、「“霊”にみちびかれて」と書かれていますように、神さまのご意志によってなされたものでした。救い主なるお方が悪魔の試みを受けられ、そしてそれに対して勝利を勝ちとられるために、神さまのご計画によるものでした。イエスさまは、私たちの救いのために、すべてのことをしてくださったのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

60番

改訂51番

話してみよう

- ・私たちの毎日の主な食べ物は？
- ・米（ごはん）麦（パン）等々…
- ・目で見たり、耳で聞く心の食べ物を考えてみよう
- ・イエスさまの食べ物は？

やってみよう

「イエスさまのみことば手帳Ⅱ」を作る。
手帳Ⅰに続いて、心の食べ物、飲み物についてみことばをかきとめてみよう。

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」（マタイ 4:4）

（参考に）「食べものから見た聖書」 河野友美著

★今週の聖句

「このわたしが飲もうとしている杯を飲むことができるか」

マタイによる福音書 20:22

★ねらい

- ①「このわたしが飲もうとしている杯を飲むことができるか」と、主イエスが言われるのは、主の受難と十字架の死を指している。洗礼は、主の十字架の死と復活のいのちに与ることである。それは私たちにとって「恵みの賜物」であると同時に、感謝と喜びのうちに歩む道である。

★説教作成のヒント

- ・四旬節は主の受難を覚えるだけでなく、復活の備えをする時である。弟子たちは、主のみ力を信じ、自分たちなりの期待をかけていたため、主イエスが受難予告をされたときに、受け入れることができなかった。第1回目には、ペトロが「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません」と主をいさめ、主イエスから「サタン、引き下がれ。」と叱責を受けた（マタイ 16:22-23）。第2回目には、弟子たちは「非常に悲しんだ」（マタイ 17:23）と記されている。そのような背景があつて、第3回目の受難と復活の予告（マタイ 20:17-19）があり、この箇所テキストにつながる。

★豆知識

- ・「人の子」 ダニエル書 7:13 の「見よ、『人の子』のような者が天の雲に乗り／『日の老いたる者』の前に来て、そのもとに進み」というみ言葉から、メシアを指して用いられていた。主イエスご自身は受難の出来事に関してご自分のことを言われるときに、この言葉を用いられる。多くの人の贖いとしてご自身の命をささげてくださったのである。

★説教

イエスさまは弟子たちに、ご自身がこれから歩もうとされている十字架の死と復活について語られます。けれどもその知らせは、弟子たちにとって、受け入れることがむずかしいことではなかったでしょうか。弟子たちにとってイエスさまは心の支えであり、なくてはならないお方です。弟子たちはイエスさまを失いたくありません。「このわたしが飲もうとしている杯を飲むことができるか」と、主イエスが言われた「杯」とは、苦しみを受け十字架上で死なれることを指しているのです。

しかしイエスさまは、十字架につけられるために、エルサレムに向かってまっすぐに進んでいかれます。それは、イエスさまが、弟子たちと永遠に別れるためではなく、十字架の上で死なれることによって、私たちすべての人が救われるためだったのです。そして三日目に復活されたイエスさまは、イエスさまの救いに生きる、永遠のいのちを与えてくださるのです。

弟子たちにこのことを語られたときに、ゼベダイの息子たちの母親が、二人の息子といっしょにイエスさまのところに来て、何かをお願いしようとします。イエスさまが「何が望みか」とおっしゃると、母親は「王座におつきになるとき、この二人の息子が、一人はあなたの右に、もう一人は左に座れるとおっしゃってください」と願うのです。母親は、息子たちがイエスさまの右と左に座ることで、イエスさまからずっと離れずにいることができると考えたのでしょうか。その約束をイエスさまからいただくために、母

親として息子たちに、精一杯のことをしてやりたいという親ごころでした。

けれどもイエスさまは、「しかし、わたしの右と左にだれが座るかは、わたしの決めることではない。」と母親の願いをつき放たれます。それは、ただ単に、つき放すことがイエスさまの本意ではなく、つき放すことによって、イエスさまの救いに与れるようにと願っておられたのです。

母親がイエスさまにお願いをする前から、母親がどのようなお願いをするのかをイエスさまは、すでにご存知でした。しかし、あえて母親に対して、「何が望みか」と尋ねられたのです。イエスさまが「何が望みか」と尋ねられたのには深い意味があったのです。

母親やその息子たちが、そして私たちすべての者が、間違ったとんちんかんな願いではなく、イエスさまのいのちに与るといふ、まことの願いをいただくように、イエスさまは望んでおられるのです。

イエスさまは、今日も私たち一人一人に、「何が望みか」と尋ねておられるのです。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□ 1 2 3 番

□ 改訂 1 2 2 番

話してみよう

- ・ 偉い人、良い人とはどんな人？
- ・ 王様のように大勢の人達を従える人？
- ・ 自分のことよりも、大勢の隣人のために召し使いのようになる人？
- ・ 「杯」はどんな意味があるのだろうか？
- ・ イエスさまの上にこれからおこる苦難のこと…

やってみよう

イエスさまはぶどうの木ですから、私たちはその枝です。そこにぶどうの実をみのらせよう。

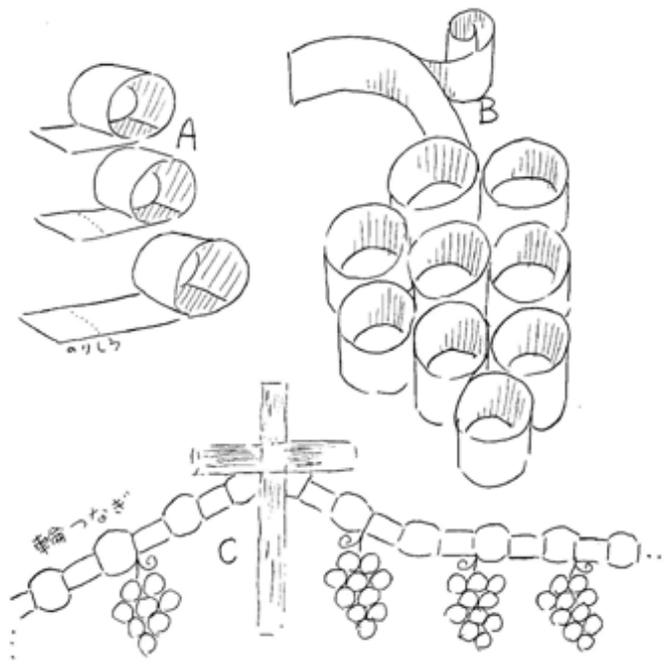
折り紙の白か紫を用意して2cm巾のテープをつくる。

A図―「ぶどうの実」をつくる

B図―「ぶどうのふさ」をつくる

C図―それぞれの「ぶどうのふさ」を輪でつなぎ、みんなでつないでいく。

部屋にかけてかざる。



★今週の聖句

「わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。」

ヨハネによる福音書 4:14

★ねらい

- ①サマリアの女性の心の飢えと渇きをご存知の主イエスは、主のほうから「水を飲ませてください」と声をかけ女性との対話を始められる。主イエスは、少しずつ彼女の心を解きほぐしつつ、過去と現在の罪を赦し、サマリアの女のうちに、永遠の命に至る水が湧き出るようにしてくださった。さらに、主は彼女を用いて、福音を伝える者としてくださった。

★説教作成のヒント

- 福音書の中でも、主イエスとある人物との対話が、これほど詳しく書かれているところは少ない。サマリアの女性の心がしだいに癒されていく、そのプロセスに注目しながら、主のみ言葉に学びたい。そのため説教でも紹介しているように、ビブリオ・ドラマ（ロールプレイ）を用いるのも一案である。心の渇きを覚えていたサマリアの女が、実は「わたし」であることに気付かせたい。

★豆知識

- イスラエルの昼間はとにかく暑い。多くの人々はその暑さを避けて、早朝に水を汲みに来る。正午ごろに、このサマリアの女性が水汲みに来たことから、町の人たちとの人間関係がうまくいっていなかったことがうかがえる。シカルの町は、エルサレムなどと同じように丘陵地にある。丘陵地に残っている古代の村の井戸の深さを調べるために、小石を落とすと5～6秒してから「ポチャーン」という音が響いてきた。計算すると深さが100m以上もあることがわかる。昔ヤコブが掘ったこの井戸もかなり深かったことが想像される。日中の暑いさなかに、そんな深い井戸に水を汲みにきた女性に、主イエスは優しく声をかけられたのである。
- サマリアとユダヤとの関係については、列王記下17章に経緯が書かれている。

★説教

この聖書の箇所は、イエスさまとサマリアの女性の対話が、とても詳しく書かれています。わたしは以前に、このところの聖書の学び会でこんな経験をしました。2人一組になって、イエスさまとサマリアの女性の会話の部分、つまり「かぎかつこ」で書かれている部分を交互に読むのです。できるだけ登場人物の気持ちになって、小さな劇を二人でしているような気持ちで、感情をこめて読み合うのです。ひととおり読み終わったら、次はイエスさまとサマリアの女性の役目を交代します。そして読み終わったら、お互い感じたことを語り合うというものでした。みなさんにもおすすめします。

暑い暑い正午ごろ、イエスさまはヤコブの井戸のかたわらで、「水を飲ませてください」とサマリアの女性に語りかけられます。そのころサマリアとユダヤの人はとても仲が悪くて、そんな日常的な会話すら、かわす関係ではとてもありませんでした。少しびっくりしている女の人に、イエスさまは「『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人があなたに生きた水を与えたことであろう」と言われます。そしてさらに「この水を飲む者がだれでもまた渴く。

しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。」とおっしゃるのです。

サマリアの女の人の心は渴いていました。真実に心のうるおいを求めていたのです。そんな女の人に、イエスさまは、霊とまことをもって神さまを礼拝することの大切さを教えられ、「今がその時」だと促されます。そして、「あなたと話しているこのわたし」が、キリストと呼ばれる救い主であることを明らかになさいました。

サマリアの女の人の過去の罪も、現在の罪も、すべてがイエスさまによって赦されました。もうあなたの心は渴かない。あなたの内で、永遠の命に至る水がこんこんと湧き出るようになるのだと励まされるのです。

昔むかし、キリスト教の教会のごくはじめの頃には、復活祭（イースター）に洗礼を受ける人が多かったのです。洗礼を志願する人たちは、ヨハネによる福音書のこの箇所を学び、洗礼の準備をして復活祭に備えたのです。イエスさまは十字架の上で、「渴く」（ヨハネ 19:28）と言われ、まもなく息を引きとられました。イエスさまは、わたしたちを救うために、わたしたちにこんこんと湧き出るいのちの水を与えるために、ご自身は「渴く」と言われ、私たちの身代わりとして死んでくださったのです。

聖書のみ言葉を学びつつ、このサマリアの女のように、イエスさまと親しくお話しをしましょう。イエスさまは、もう私たちの心の中に、心のすぐそばに来ていてくださっているのですから。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

46番

改訂125番

話してみよう

- ・ 水の大切なこと
- ・ 池などのたまり水のこと
- ・ 高い山から流れ出る水のこと
- ・ こんこんと岩間から湧き出る泉のこと
- ・ 心をうるおす「生命の水」のこと

やってみよう

ここで今まで書いたり、これから書き加えていく「イエスさまのみことば手帳Ⅰ・Ⅱ」の出番です。

みことばを書いたあと、まわりに絵をかくといいですね。

クラスの友だちに見せ合ったり、いじめられっ子や病気で休んでいる子、悲しい出来事にあつた子たちに、みことば手帳を見せてあげよう。